

9月9日は「救急の日」です。また、9月5日(日)～9月11日(土)は「救急医療週間」です。救急医療及び救急業務に対する正しい理解と認識を深めましょう。いざという時のために、応急手当の方法を知っておくと、慌てずに対応することができます。下記の対応をご参考にして下さい。

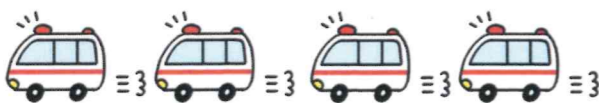
けいれんが起きたら…？

子どもがけいれんを起こしたら、まず衣服をゆるめ、嘔吐物を喉に詰まらせないように横向きに寝かせます。けいれんの続いた時間を計って記録し、医師に伝えましょう。



× やってはダメ！ ×

舌をかまないように、口の中に布などを詰めるのはやめましょう。窒息の原因になります。また、けいれんしている子どもを揺さぶったり、押さえ付けたりせずに、様子を静かに見守りましょう。



けいれんが起きたら救急車を呼ぶべきかどうか、判断に迷うところです。次のような症状があれば、至急呼びましょう。

- ・けいれんを起こすのが初めて
- ・頭を打った後にけいれんを起こした
- ・10～15分経過しても、けいれんが止まらない
- ・体の一部だけがけいれんしている
- ・けいれんが止まって、再度けいれんが起きた時
- ・けいれんが治まっても、意識が戻らない
- ・嘔吐や頭痛を伴うけいれん

鼻血



鼻血が出た時は、まず子どもの衣服をゆるめてらくにさせます。小鼻を指で挟み、圧迫して止血します。出血が治まらない時は、鼻の付け根を冷やすのもよいでしょう。20分以上出血が止まらない場合は、病気の可能性もあるので、受診しましょう。

鼻血が出た時に上を向かせると、血が喉に流れて吐き気をもよおす場合がありますので、頭は下に向かせましょう。



やけど



やけどをした時は、できるだけ早く冷やすことが大切です。冷やす時は流水が最も適しています。やけどをした部分が赤いだけなら、しばらく冷やして様子を見ましょう。



水ぼうが破れて痛い時は、食品用ラップで傷を覆い、その上から冷やすとよいでしょう。水ぼうができた時、水ぼうが破れて傷になった時は、痛みがある程度落ち着くまで冷やして受診しましょう。

薬の服用について

薬は処方箋の指示通りに服用するのが原則ですが、仕事や園・学校の都合などで調整が難しい場合は、医師又は薬剤師に相談の上、薬を飲む時間を多少ずらすなどの工夫をして「1日の服用回数」を必ず守りましょう。 次の薬を飲むまでの間隔は、5～6時間あけることが望ましいですが、最低4時間以上はあけるようにしましょう。

例えば、服用時間をずらす工夫として、朝服用、帰宅後すぐに服用、寝る前に服用するとよいでしょう。

薬の飲ませ方

シロップ

薄めずにそのまま飲ませます。乳児は必要な量をスポイトやスポーンで取り、口の中に入れてください。

粉薬

- 水で溶く場合
少量の水かぬるま湯で薬を溶かします。飲ませる時はスプーンやスポイト、おちょこなどを使いましょう。
- 直接口に入れる場合
開いた状態の口の中に直接粉薬を入れます。
- 練る場合
小さな器に粉薬を入れ、数滴の水をたらし、だんご状に練ります。練った薬は頬の内側あたりに塗ります。

どの飲ませ方をした場合も薬を飲んだ後は水や湯冷ましを飲ませましょう。



× 食品に混ぜる時は ×

オレンジジュース、りんごジュース、スポーツドリンク、ヨーグルトなどの酸味がある物は薬によっては混ぜることができません。食品に混ぜる場合、残してしまうこともあるので、薬を混ぜる時の量は少なめにしましょう。また、ミルク、おかゆなど、主食には混ぜないようにしましょう。味の変化で食べ物自体を嫌いになってしまう可能性があります。